Emergency
Assistance
Japan

2026年12月期
第３四半期 決算説明資料

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
Emergency Assistance Japan（EAJ）
証券コード：6063

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

会社概要
Company Overview

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Mission

私たちのミッション

「アシスタンスでお客様の世界を広げる」

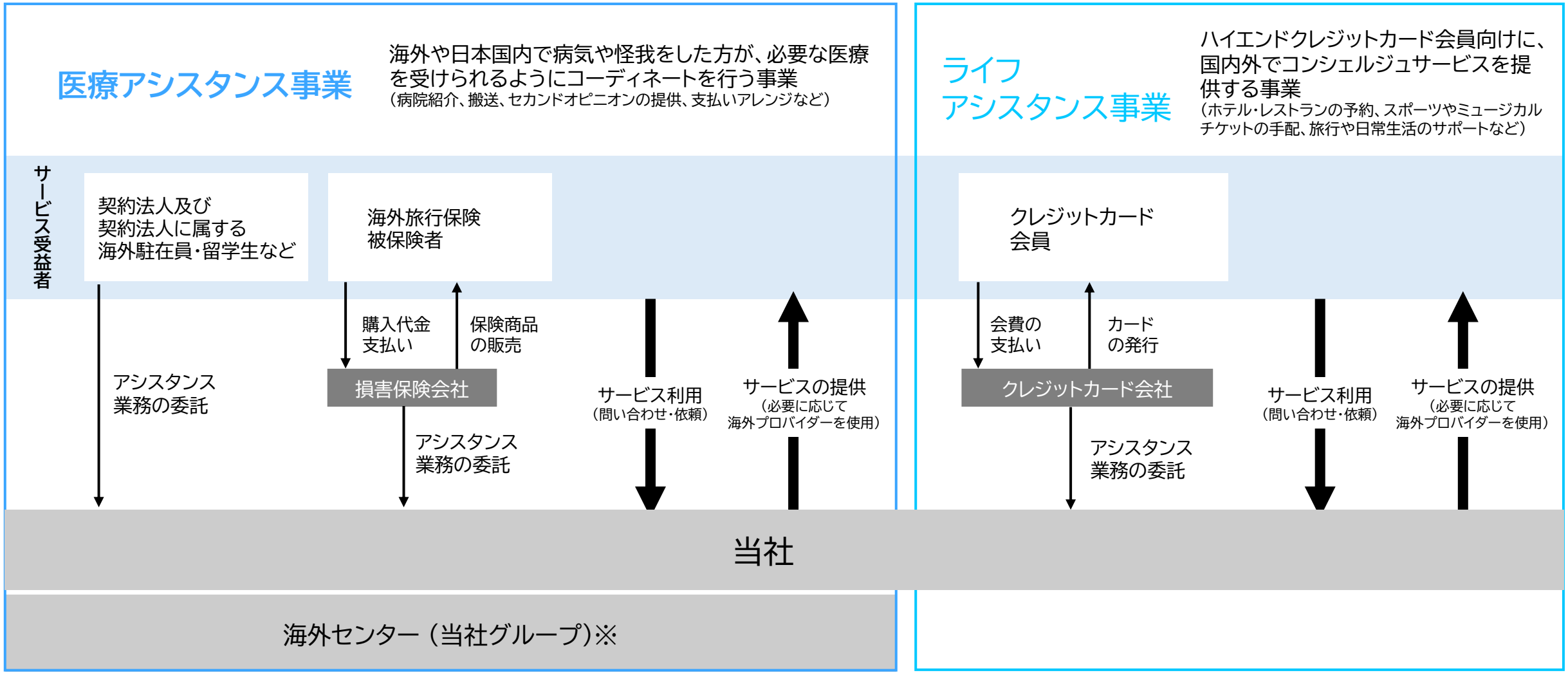
アシスタンスを通じて
お客様が安心して新しい世界へ踏み出していただけるようにする
それが EAJ のミッションです

EAJは言語や社会制度、カルチャーギャップのある世界のどこの地域でも、
現地のインフラとお客様の間に入ってコーディネートして困り事や不安を解消し、
安心して新しい世界に踏み出してゆけるように力強く支援することによってお客様の世界を広げます。

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

ビジネスモデル

Emergency Assistance Japan



※海外センターは当社グループ（連結子会社等）で構成されている

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

決算業績サマリー
Financial Results Summary

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

2026年12月期第3四半期　決算概要

Emergency Assistance Japan

- 医療アシスタンス事業における海外大手損保の新規受注や価格改定が奏功し増収増益を達成
- 前年同期比で大幅増益となり、営業利益進捗率は100.6%と通期予想を達成

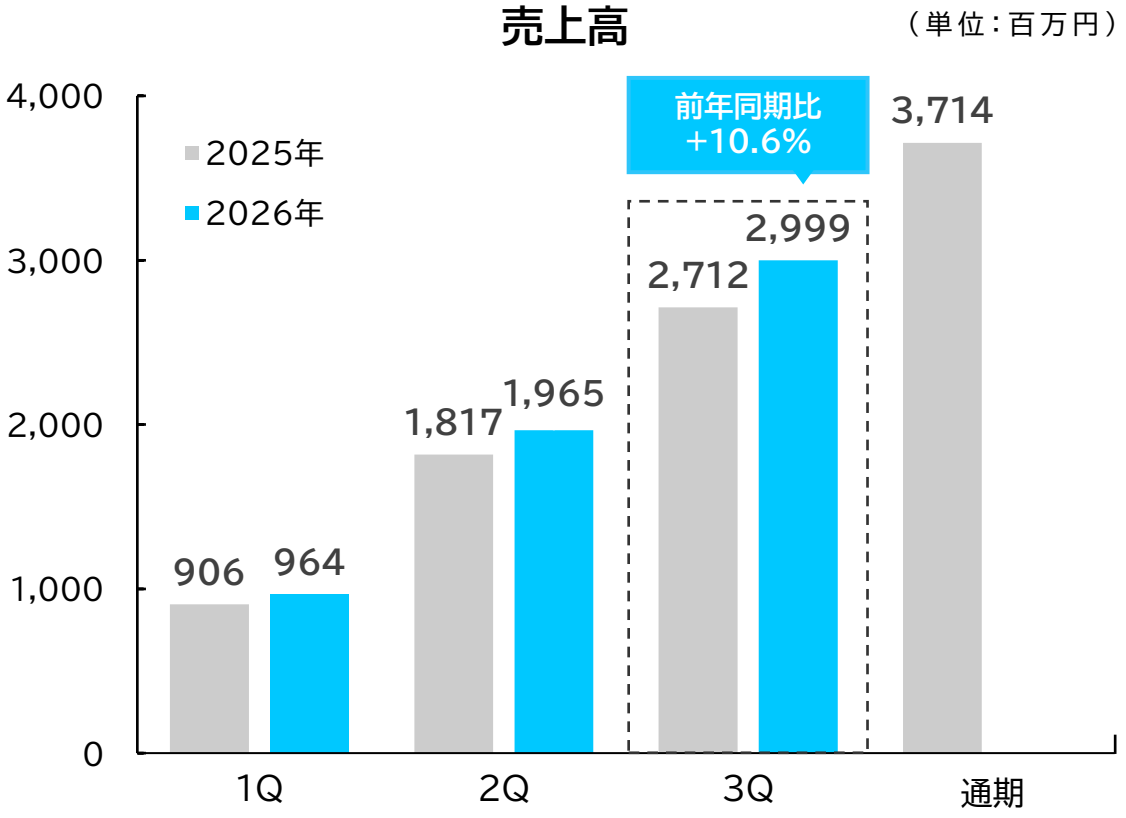
（単位：百万円）

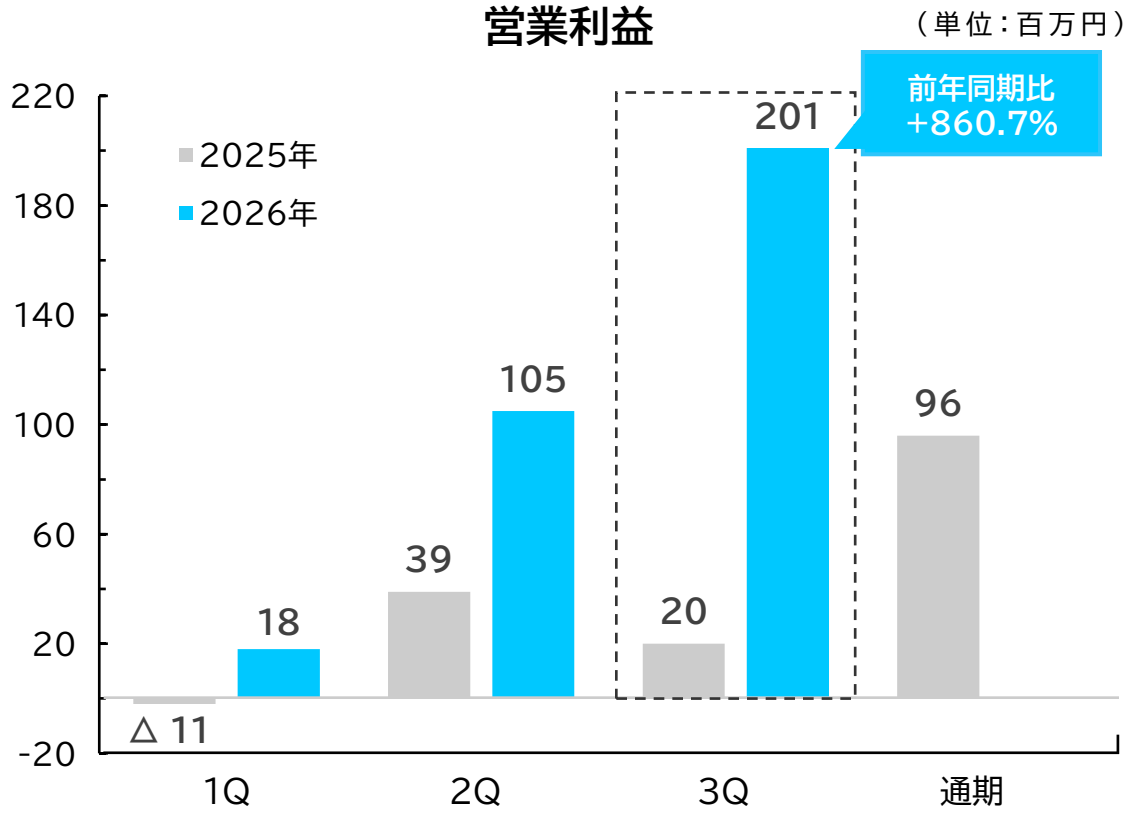
	2025 3Q	2026 3Q	対前年同期 増減額	同左 増減率	通期業績予想 進捗率
売上高	2,712	2,999	287	10.6%	75.0%
営業利益	20	201	180	860.7%	100.6%
経常利益	44	207	162	363.7%	103.9%
当期純利益	50	142	91	179.2%	101.5%

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

四半期業績（累計）の推移

◆新規受注・価格改定の効果とインバウンド需要の確実な獲得により、医療アシスタンス事業が牽引し
前年同期比+860.7%の大幅増益を達成

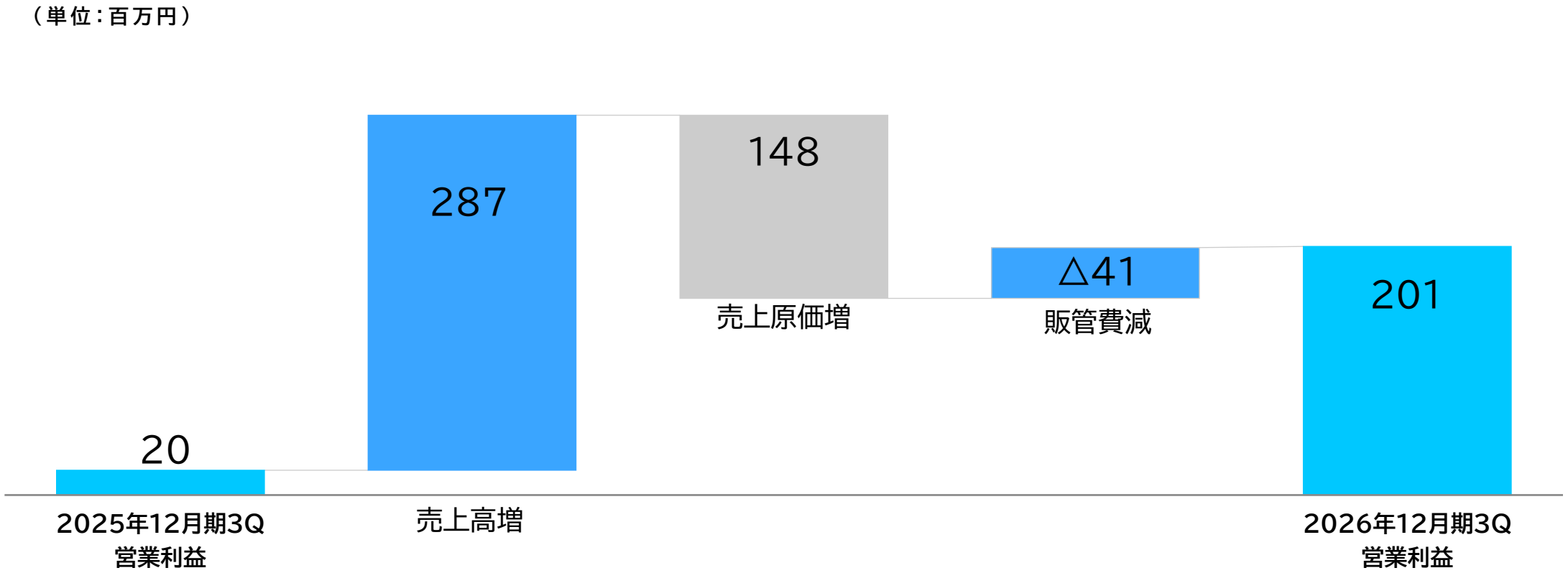




Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

営業利益の増減要因分析

◆医療アシスタンス事業の増収効果が原価増（＋148百万円）を十分に吸収し、販管費の効率化（－41百万円）も加わり大幅な増益を実現



Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

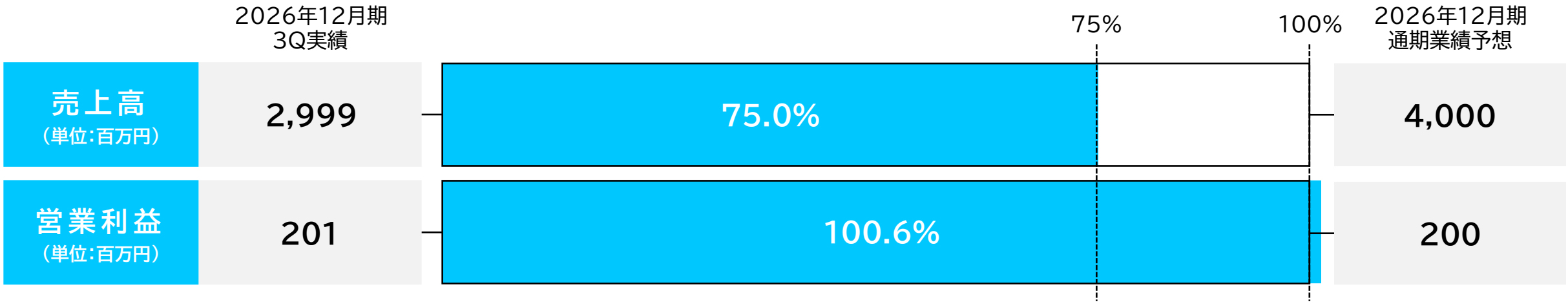
業績予想と進捗率

- 第3四半期の進捗率は売上高75%、各利益項目は100%を超過
- 円安など外部環境を見極めつつ、医療アシスタンス事業の好調を背景に通期計画の確実な達成を見込む

（単位：百万円）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
通期予想	4,000	前期比 +7.7%	200	前期比 +108.1%	200	前期比 +93.1%	140	前期比 +37.4%	55.57円

（対通期）業績予想進捗率



Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

セグメント別業績

Segment Results

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

セグメント別業績ハイライト

Emergency Assistance Japan

- 医療アシスタンス事業は戦略的価格改定や訪日客急増を取り込み利益+52.5%と大きく伸長
- ライフ事業も会員増に伴う契約見直しにより増収を確保

（単位：百万円）

		売上高	セグメント利益
セグメント合計	2026年3Q	2,999	201
	前年同期	2,712	20
医療アシスタンス事業	2026年3Q	2,619	531
	前年同期	2,353	348
ライフアシスタンス事業	2026年3Q	380	58
	前年同期	359	81
調整額 ※	2026年3Q	-	△388
	前年同期	-	△408

医療アシスタンス事業

海外旅行保険付帯のアシスタンスサービス

海外大手損害保険会社からの新規受託により増加

法人との直接アシスタンスサービス

新規大型案件受託、戦略的契約料金改定により売上増加

訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業

訪日客の急増に伴い需要が伸長し売上増加

ライフアシスタンス事業

ライフアシスタンス事業

既存取引先との契約見直し等で、
売上高は前年同期比で増加

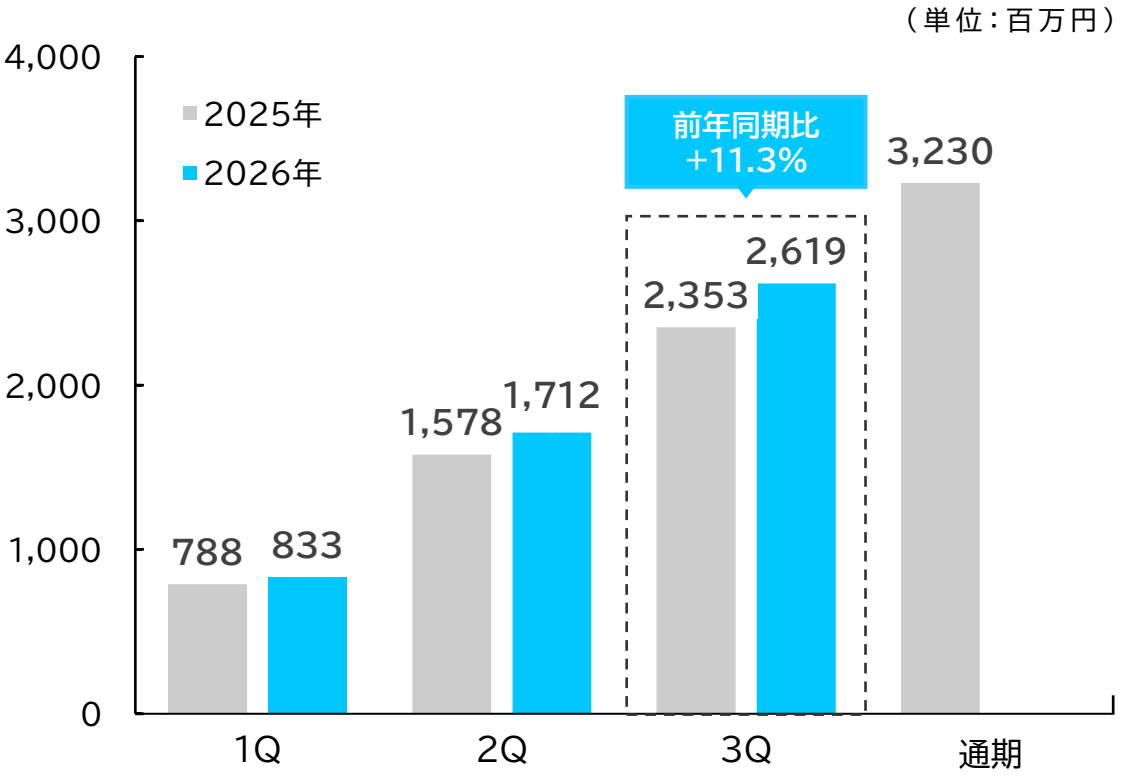
※調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと
※セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益に一致

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

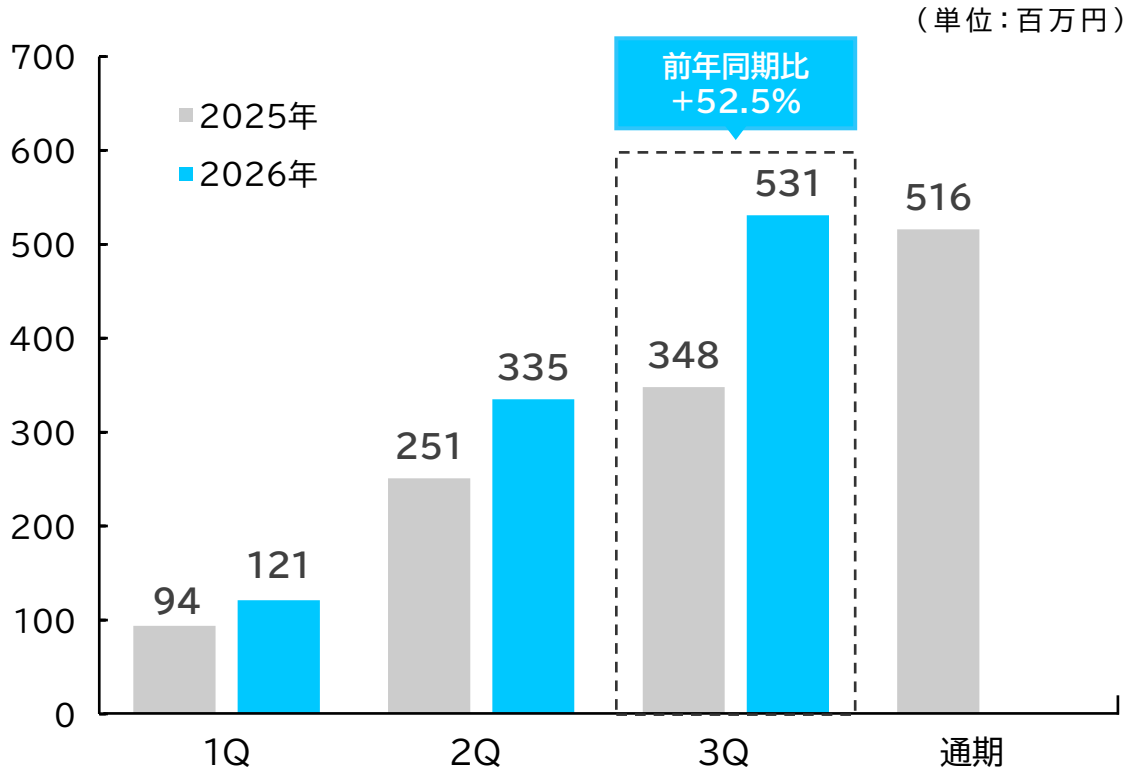
セグメント別業績　医療アシスタンス事業

- 海外大手損保の新規受注や価格改定、訪日外国人向け緊急対応の需要獲得が奏功し大幅増益
- EMIS等の官公庁事業も安定的に寄与

医療アシスタンス事業　売上高



医療アシスタンス事業　利益



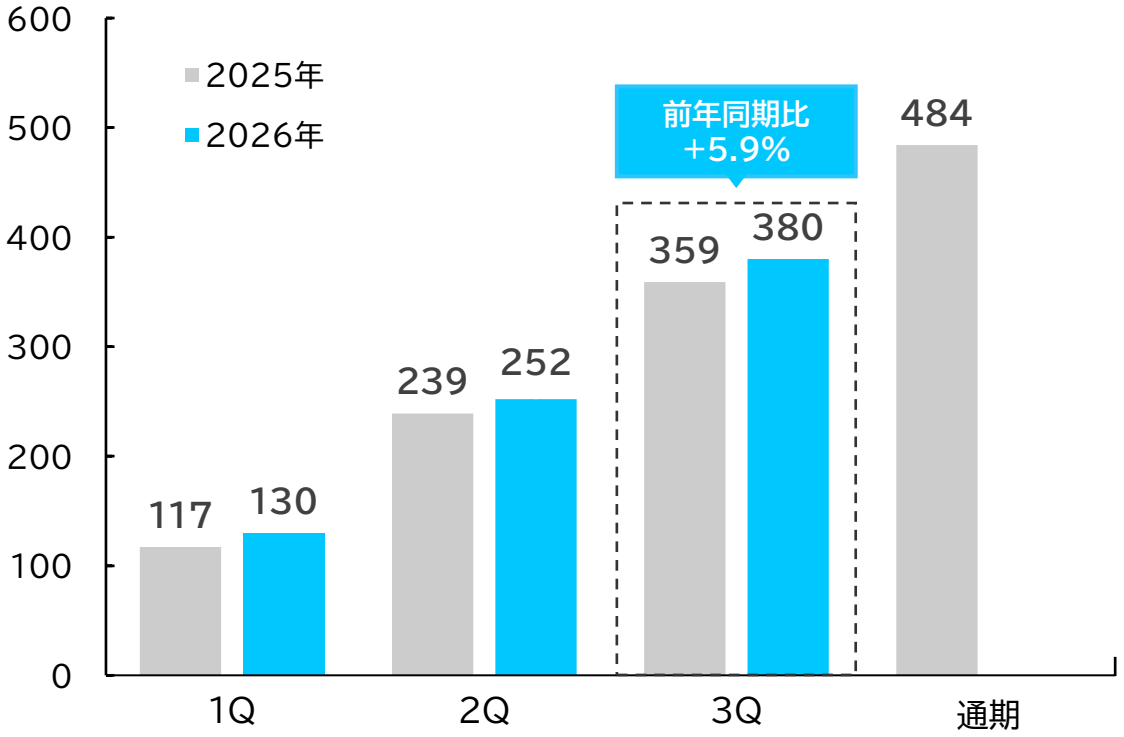
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

セグメント別業績　ライフアシスタンス事業

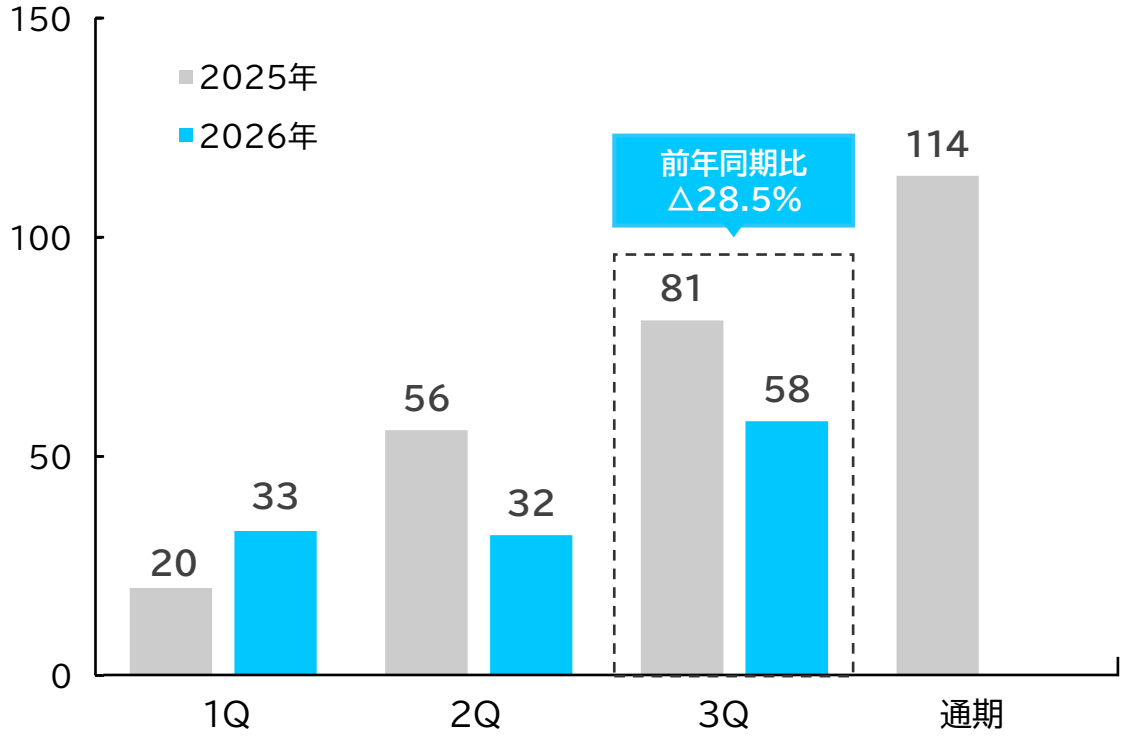
Emergency Assistance Japan

- クレジットカード会員数増加に伴う契約見直しにより増収を確保
- 減益は次世代コンタクトセンタープラットフォーム『Genesys Cloud』導入に伴う一時費用であり、今後のコスト最適化への先行投資

ライフアシスタンス事業　売上高　（単位：百万円）



ライフアシスタンス事業　利益　（単位：百万円）



Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

財政状態
Financial Condition

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

連結貸借対照表

- 事業拡大に伴い立替金等の流動資産が増加するも回収管理を徹底
- 自己資本は財務基盤の健全性を十分に維持

2025年12月期末

総資産
38の.1億円

流動資産
36.0億円

固定資産
2.0億円

負債
19.2億円

流動負債 19.0億円

純資産
18.8億円

利益剰余金11.5億円

2026年12月期第3四半期末

総資産
42.8億円

流動資産
41.0億円

固定資産
1.7億円

負債
22.6億円

流動負債 22.4億円

純資産
20.1億円

利益剰余金12.7億円

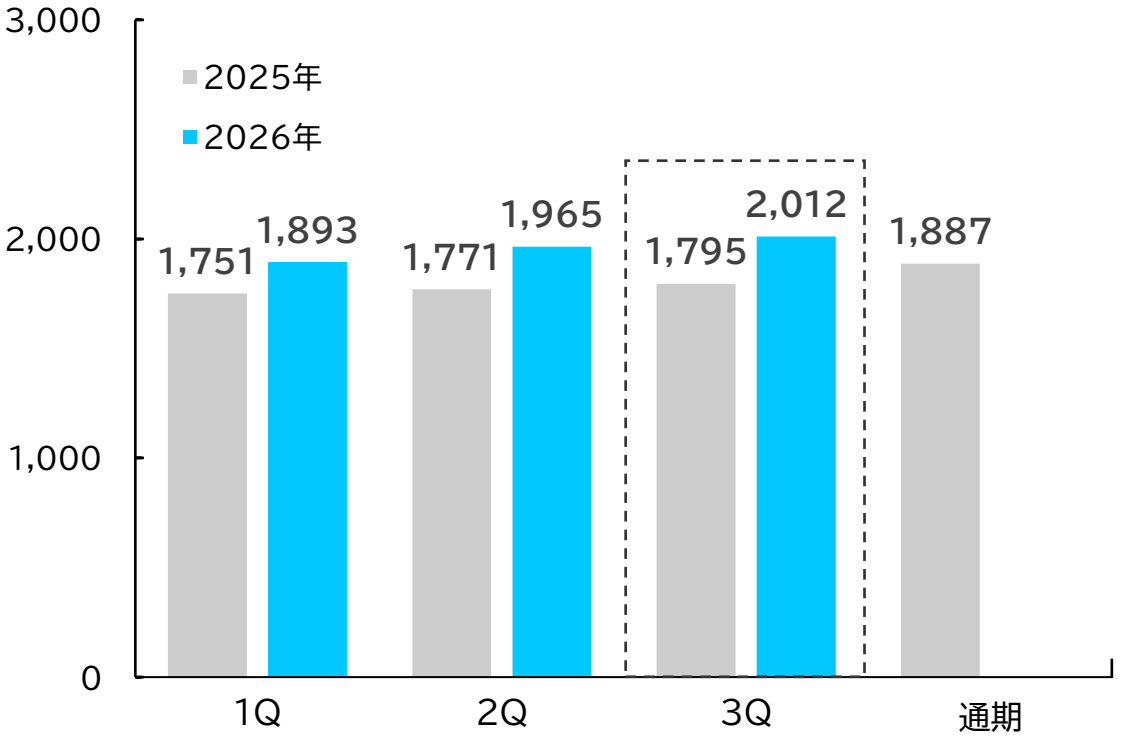
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

財務状況

- 本業でのキャッシュ創出力を基盤に約29億円の現預金を確保し、事業展開に向けた流動性を維持
- 自己資本比率は46.3%とリスクに耐えうる健全な財務基盤を維持

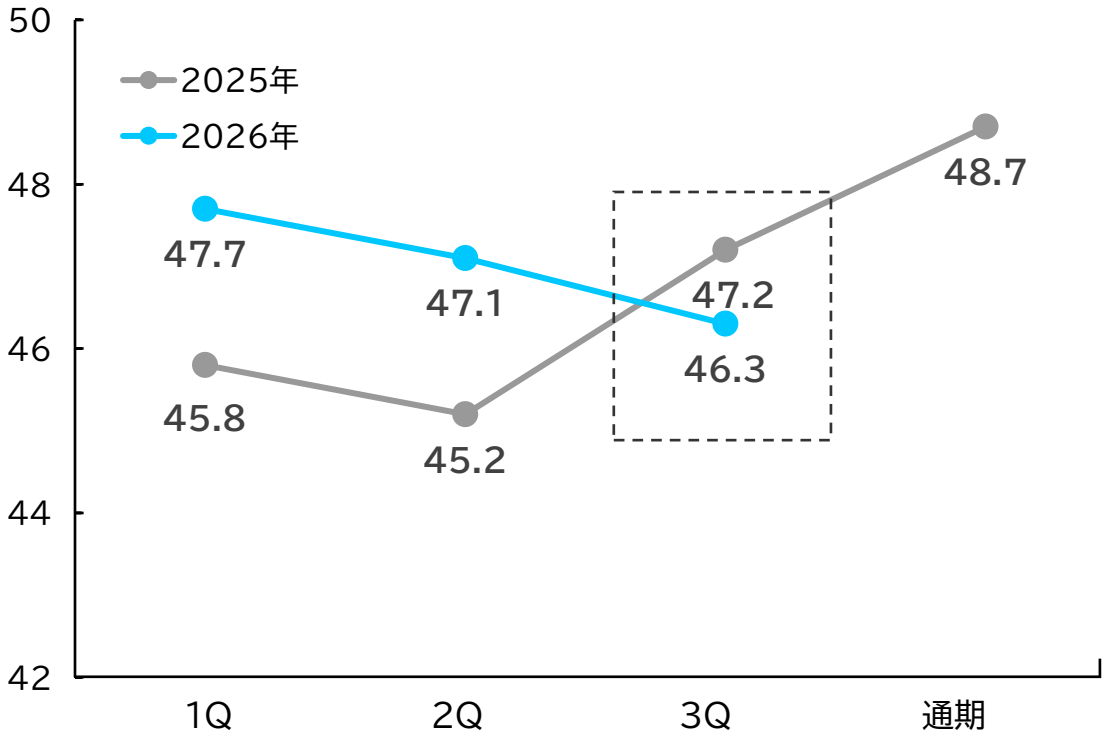
純資産

（単位：百万円）



自己資本比率

（単位：%）



注：自己資本比率の分子（自己資本＝純資産－新株予約権）で計算しています。

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

中期経営計画

Medium-Term Management Plan

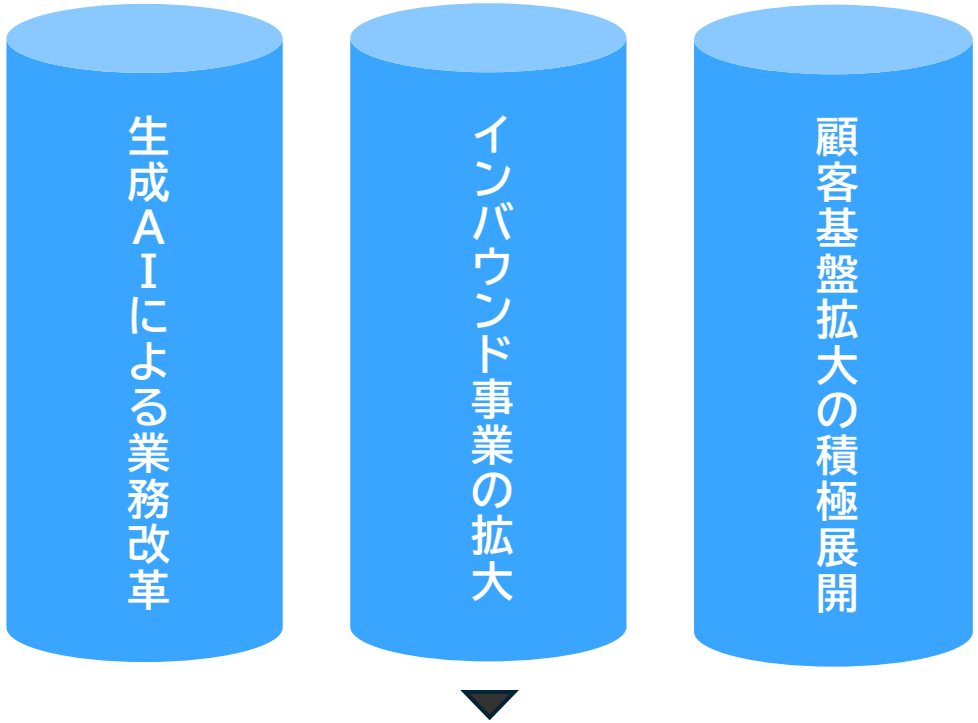
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

EAJ Next Vision

中期経営計画2025-2027

医療アシスタンス領域で培った知見と
テクノロジーを融合した
「次世代型エマージェンシーアシスタンス」の実現を目指す



効率向上、市場開拓、収益の大幅拡大を推進
中期経営計画目標を達成、成長軌道へ

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

中期経営計画　業績目標

Emergency Assistance Japan

◆2027年12月期の目標（売上50億円、営業利益3.5億円）に向け順調に進捗

◆2026年（当期）においても利益目標を前倒しで達成基調

（単位：百万円）

	2024年12月期（実績）	2025年12月期（計画）	2025年12月期（実績）	中期経営計画期間 2026年12月期（計画）	2027年12月期（計画）	最終年増加率 対2024年比
売上高	2,908	3,300	3,714	4,000	5,000	71.9%
営業利益	52	160	96	200	350	573.1%
営業利益率	1.8%	4.8%	2.6%	5.0%	7.0%	+5.2pt
ROE	2.8%	8.0%	5.6%	9.0%	10.0%	+7.2pt
自己資本比率	46.1%	30%～40%	48.7%	30%～40%		
配当性向	42.0%	20%～30%	22.3%	20%～30%		

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

2026年12月期の優先課題

Emergency Assistance Japan

- 2026年度は『EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027』の核心フェーズ
- 既存事業の収益力を強化しつつ、成長分野にリソースを集中。ナレッジとテクノロジーを融合し、**収益体質の改善を図る**

01

中長期的な企業価値向上

経営資源の適正配分による持続的成長



02

ポートフォリオの最適化

収益構造の抜本的見直しと
高付加価値商品へのシフト

03

業務プロセスの改革（DX）

AI導入によるオペレーションの
自動化・効率化

04

成長分野への投資

インバウンド等の高収益領域へ
資本を集中投下

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

セグメント別成長ポートフォリオ戦略

Emergency Assistance Japan

◆ 医療アシスタンスの安定成長、インバウンドの飛躍的成長、ライフ事業の構造改革により最適ポートフォリオを構築。**高収益体質へシフト**

01

医療アシスタンス※

安定成長基盤

顧客層の拡大と
オペレーションDX化による効率化

2026年度目標	
売上	3,200百万円
営業利益	160百万円

02

インバウンド 医療ツーリズム※

飛躍的成長

最大の成長ドライバー

2026年度目標	
売上	300百万円
営業利益	15百万円

03

ライフ・ノンメディカル

構造改革

収益性重視の構造改革、
不採算案件の見直しとリソース集中

2026年度目標	
売上	500百万円
営業利益	25百万円

※開示上の事業セグメントである「医療アシスタンス事業」を、「医療アシスタンス」と「インバウンド医療ツーリズム」の2つに区分して目標を設定しています
また、「インバウンド医療ツーリズム」には、医療ツーリズム事業に加えて訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業を含みます

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

次世代型アプリ新「EAJ Members」をリリース予定

- 海外渡航者の医療相談ニーズ拡大と効率化を背景に新アプリをリリース予定
- AI・DX技術の活用により利便性向上と対応品質の向上を図る
- 顧客体験価値（CX）の向上と、業務量増加にともなう対応力を強化

主な新機能



かんたん登録

電話での案内が必要だった各種登録（本人情報や既往症、保険証券の登録）をアプリで完結
本人だけでなく帯同家族も利用可能



現在地から医療機関検索

現在地情報をもとに近隣の医療機関が検索可能に
受診に必要な情報を一覧で確認可能（※診療科目・言語対応・予防接種や健康診断の可否など）



チャットで相談

従来は電話が中心であった問合せをアプリのチャットからも可能に
過去の対応履歴も踏まえた迅速できめ細やかなサポートを実現



AIによる対応品質の向上

AI-OCRやチャット回答のサジェスト機能により、コーディネーターの対応スピードと応対品質の向上
（将来的にAIボイスボット導入も検討予定）

当社が長年培ってきた医療アシスタンスの実務知見と最新のAI技術を融合し、
渡航中の急な体調不良や受診相談時に、より早く・簡単に必要な支援を受けることができる環境を提供

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

高まるニーズを捉え2つのサービスで顧客基盤を積極拡大

◆地政学リスクの高まりや危機管理意識の向上を追い風に、セキュリティ・アシスタンスと留学生危機管理の両サービスで受注・契約が拡大

セキュリティ・アシスタンスサービス



海外でのテロ・暴動などのセキュリティリスクに備え、最新情報の提供や緊急時対応、避難支援などを通じて企業の海外事業と社員の安全を支援

背景・ニーズ

イラン情勢をはじめとする地政学リスクの高まりで、
企業の安全対策・危機管理ニーズが増大

当社の対応

- セキュリティコンサルティング案件の受注増加
- イラン情勢に関する顧客からの問い合わせ対応
- セキュリティ調査の実施/周辺国からの退避オペレーションの実施

コンサルティング受注が増加
有事対応の実績を通じて顧客の信頼を獲得

留学生危機管理サービス



強固なネットワークと最新システムで
留学生、学校、保護者、それぞれに必要な
危機管理をトータルに支援

背景・ニーズ

教育機関の間で危機管理に対する関心が高く、
体制強化ニーズが拡大

当社の対応

- 全国で危機管理セミナーを開催
- 関心の高さから多くの学校が参加

インバウンドアシスタンスサービスの契約増加
セミナーを起点に新規契約の獲得につながった

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

厚労省・外務省の基幹事業を継続・再獲得し官公庁事業を拡大

◆厚生労働省「EMIS」の継続受託・新機能実装に加え、外国人診療窓口事業や外務省電話対応業務を獲得し、官公庁事業を拡大

厚生労働省

01

EMIS※ サービス事業

- 厚生労働省から、「令和8年度EMIS（広域災害・救急医療情報システム）サービス事業」を継続受託
- 全都道府県とのEMISサービス利用契約も継続受託

2026年4月～新機能実装・運用開始

石油需給逼迫に起因する医療機器等の充足状況等調査機能を新たに実装し契約追加による売上増加を見込む

厚生労働省

02

外国人診療に関する相談窓口事業

- 厚生労働省から、外国人診療に関する相談窓口事業（ワンストップ相談窓口）を2026年4月から再獲得
- 大阪府、岐阜県高山市その他自治体の類似事業も獲得

外務省

03

緊急電話対応業務

- 外務省から「本省閉庁時緊急電話対応業務」及び「在外公館閉館時電話代行サービス業務」を受託

※ EMISとは、災害時に医療機関の被災状況や患者受入状況などをリアルタイムで共有し、迅速かつ適切な医療支援を実現するための情報システム

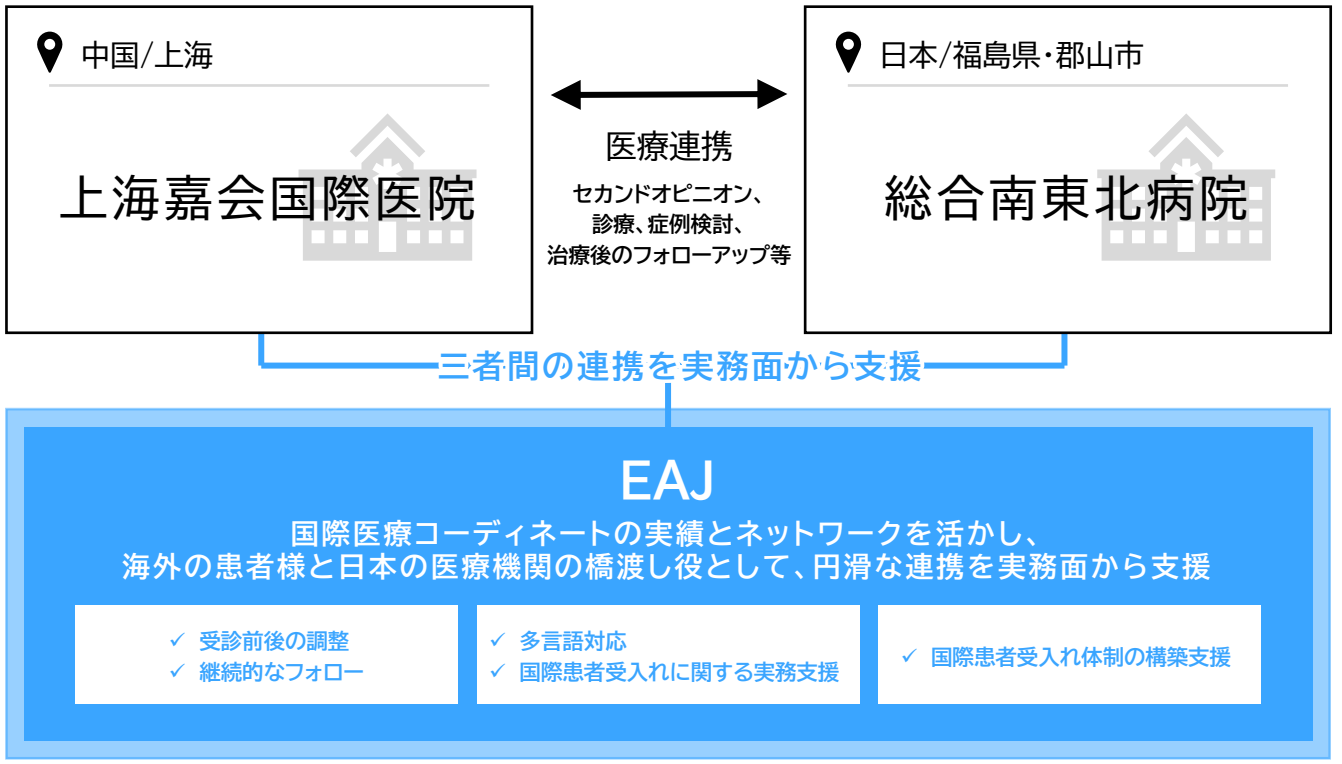
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

日中医療連携でインバウンド事業を拡大

- 総合南東北病院および上海嘉会国際医院とのMOU締結を通じ、国際医療ネットワークを拡大
- 海外患者の受入支援体制を強化





総合南東北病院と上海嘉会国際医院が診療・セカンドオピニオン・治療後のフォローアップなどで医療連携を行い、当社は国際医療コーディネートの実績とネットワークを活かして、三者間の円滑な連携を実務面から支援
海外の患者様と日本の医療機関との橋渡し役を務め、円滑な受診支援及び医療連携の実現に取り組む

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

Emergency Assistance Japan

ライフアシスタンス事業に「Genesys Cloud」※を導入

- 2026年7月に「Genesys Cloud」を導入
- AI音声認識や自動要約の活用により、応対品質向上と運営コストの最適化を推進
- 先行費用を吸収した来期以降、ライフ事業の利益率改善に大きく寄与

導入するAI機能

リアルタイムテキスト化

お客様との通話を
リアルタイムに文字起こし

リアルタイムサジェスト

対話内容に応じた
最適な案内や回答候補を
AIがリアルタイムに提示

自動サマリー

応対終了後、対応内容を
AIが自動で要約



**AI活用による応対品質の向上や業務効率化、運営状況の可視化を実現し、
お客様・コンシェルジュ双方にとって利便性の高いサービス提供体制を構築**

▸ 今後はCRMシステム（顧客管理システム）との連携を予定しており、お客様情報と応対履歴を一元管理することで、
よりパーソナライズされた高品質なオペレーション体制の構築を目指す

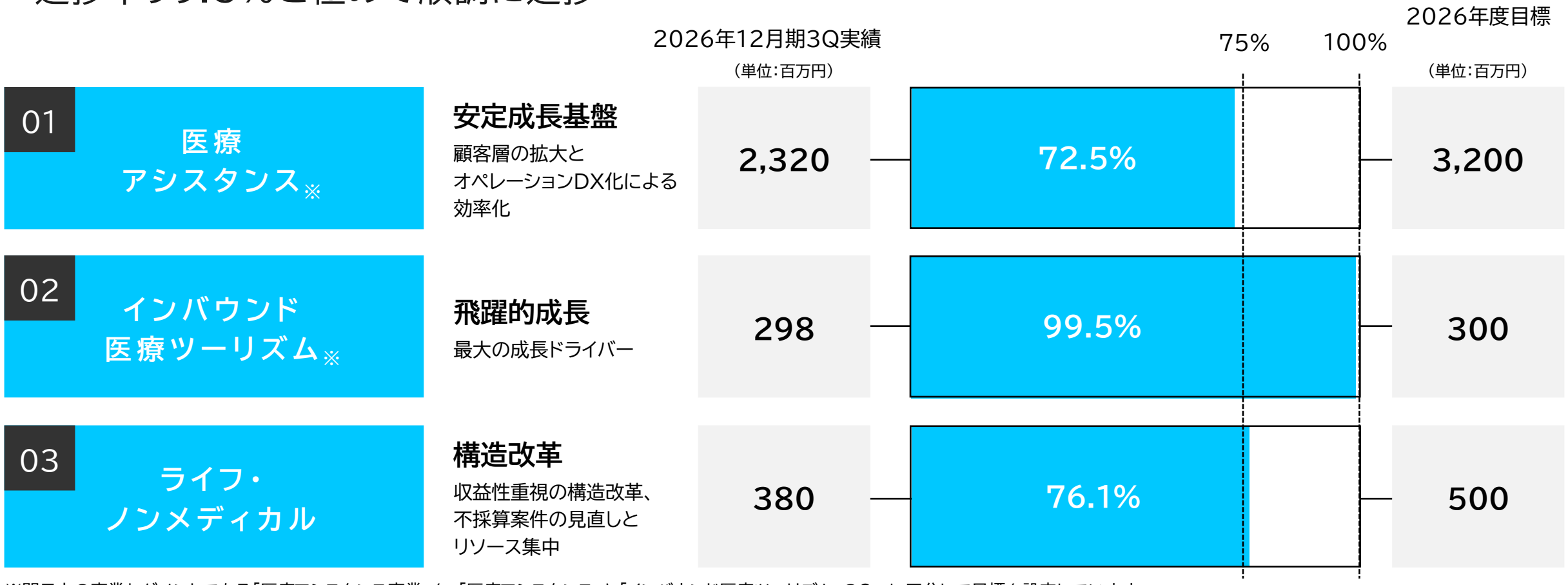
※「Genesys Cloud（ジェネシス クラウド）」とは、電話やメール、チャット、SNSなどの複数チャネルを一元管理できるAI搭載型のクラウド型コンタクトセンタープラットフォームで、開発・運営しているのは、アメリカに本社を置くグローバル企業のGenesys（ジェネシス）社です

Copyrig

セグメント別成長ポートフォリオ戦略と売上高の進捗率

Emergency Assistance Japan

◆医療アシスタンスが堅調に推移し、成長ドライバーであるインバウンド医療は通期目標に対し進捗率99.5%と極めて順調に進捗



※開示上の事業セグメントである「医療アシスタンス事業」を、「医療アシスタンス」と「インバウンド医療ツーリズム」の2つに区分して目標を設定しています
また、「インバウンド医療ツーリズム」には、医療ツーリズム事業に加えて訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業を含みます

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

免責事項

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved